平成二十九年産自給飼料の生育と分析結果より

今回は、今年収穫された自給飼料の作況調査、収量調査結果や粗飼料分析値などから、傾向や使用法について考えてみたいと思います。

一　生育及び収穫作業の経過

●一番草

五月の高温により、一番草の生育は順調に経過し、出穂は平年に比べて出穂始で一日早く、収穫も平年より五日早まりました。

●二番草

七月以降の好天により草丈の伸びは順調でした。

収穫作業は平年並みに始まり、収穫終は二日早まりました。

二　収量（表一）

・一番草の収量は、二、三三三kgと平年の一〇四％となりました。

・二番草の収量は、一、二九二kgと平年の一〇二％となりました。

・一番草と二番草の合計収量は一〇三％となり、サイレージ等は平年並に確保されたと考えられます。

・飼料用とうもろこしの生収量は、六、五五四kgと平年の一一三％とかなり上回りました。

表1　H29年中西部支所管内の収量調査結果
（市町村、JA、普及センター調査による）

	H29	平年	平年比
1番草	2,333 kg	2,240 kg	104%
2番草	1,292 kg	1,263 kg	102%
合計	3,625 kg	3,503 kg	103%

	H29	平年	平年比
コーン	6,554 kg	5,799 kg	113%
TDN収量	1,052 kg	1,055 kg	100%

※収量はkg/10a

●飼料用とうもろこし（コーン）

七月以降の好天により、七月中旬から八月上旬までの草丈の伸長は平年を上回り、稈長はやや徒長気味となりました。

八月以降は低温日照不足により登熟はやや遅れ、乳熟期は三日、糊熟期四日、黄熟期九日遅れとなりました。

九月一八日の台風一八号により、倒伏、折損被害が発生しました。このため、登熟は遅れていましたが、倒伏被害対策として収穫作業を開始したため、収穫始は三日早まりました。

倒伏被害により収穫作業に日数を要し、収穫終は二日遅れとなりました。

三　栄養価

十二月時点までに揃った中西部支所管内の粗飼料分析値のデータから、今年の傾向を見てみましょう（表二）。

●一番草

ＴＤＮは収穫時期が、平年より五日早まりましたが、昨年の平均と比較してほぼ同じです。

繊維含量（ＮＤＦ）は一ポイント低い傾向です。一方、粗タンパク（ＣＰ）は、二ポイント高い傾向にあります。

既に給与している農場からは、「発酵品質もよく、食い込みが良いのでサイレージの減りが早い」との声も聞かれます。

●二番草

栄養価は、一番草同様、ほぼ昨年と同じ傾向でしたが、嗜好性など引き続き品質を確認する必要があります。

●飼料用とうもろこし

ＴＤＮ、ＮＤＦはそれぞれ平成二八年対比一〇〇％と前年並になり、デンプン含量は三ポイント高い結果となりました。

収穫が早まったために高水分となり、デンプンが排汁と供に流れ出た可能性もあるので、分析結果と牛の反応を確認する必要があります。

倒伏折損被害のため、傷みや土砂混入による品質低下が懸念されます。

表2　平成29年度粗飼料の分析値平均
（H29. 12月現在　ホクレン受付分）

		H29産（n=66）	H28産（n=22）	H29/H28
1番草	TDN	61	61	100%
	CP	11	9	118%
	NDF	64	65	98%
2番草	TDN	61	62	99%
	CP	14	15	91%
	NDF	61	61	100%

		H29産（n=20）	H28産（n=17）	H29/H28
コーン	TDN	70	70	100%
	澱粉	24	21	114%
	NDF	47	47	100%

（単位：%）

四　給与について

●食い込み量の確認

開封時は、カビや変敗等に注意しサイレージ品質を見ながら牛が十分に食えているかを確認し、カビ毒吸着剤の使用や、栄養成分の不足を補うなど臨機応変に対応しましょう。

（平成二九年十二月作成）

釧路農業改良普及センター　釧路中西部支所